

令和7年1月24日

◆鈴木ひでし委員

私は最初に、そもそもアドバイザーというのをお願いした理由というのは何なの。

◎障害サービス課長

これまでの行動障害の方への支援、それが行動制限中心になっている。そこで、新たに居室制度、そうしたものを中心にやった支援、身体拘束に頼った支援ではない新しい支援、それを導き出すには、こういった今先駆的な取組を施設の民間の方々に入っていただくのが適当だろうということで、外部の方の意見を伺いながら今のアドバイザーを選任したというところでございます。

◆鈴木ひでし委員

そのアドバイザーの方々というのは強度行動障害の専門家の方なんですか。

◎障害サービス課長

その方々が所属する施設では多くのそういった方を支援しているところでございます。

◆鈴木ひでし委員

でも、本末転倒になっているよね。この方々のよさというようなものはどこに行ってしまったのか。この文章の中を見させていただいたけど、要は、そもそもアドバイザーの方々が派遣されて、何をしにいらしたのか。これ職員の方々にきちんと説明はされているの。

◎障害サービス課長

委員からのそういう御質問を受けると、どこまで、じゃ、このアドバイザー、我々が認識しているところでの理由を職員に伝えながら配置できたかという、正確に全職員まで伝わっていなかった可能性はあるかと考えています。

◆鈴木ひでし委員

まず第一に指摘しておきたいのは、本庁の職員が真剣じゃないんだよ、この問題に。みんなアドバイザーだ、この職員だと、あんた方だよ。私から言わせてもらえば。

何を私が言いたいのかというとな、私、双方絶対にどっちがいい悪いなんて絶対言っちゃいけないと私は思っています。なんでなのかというと、そもそも中井やまゆり園はもちろん理念なり、これを目指すと思うんだと思う。だけど、一般企業じゃないんだよ。976億円を稼ぐぞなんていうような目標で動いているわけじゃないわけでしょう。

例えば、私なら私が、鈴木ひでしという人間が入所されていたら、その相手の

私をケアしてくださる方は、一生懸命私の満足度を高めるために一生懸命やってくださっているはずですよ。でも、アドバイザーの方からしたら、それはそうじゃないんじゃないのかというような会話というのが成り立って、本来のやりとり姿であるわけじゃないですか。

だから、一人一人の職員の方々のプライドもあれば、私はあまり言いたくないけど、何十年にわたって、何十年もなるのか分からないけれども、津久井やまゆり園のああいう事件が起こった素地みたいなものはみんな見ないで、こうやって人に投げてきた結果がこうなっていると私は断言しておきたいんだよ。それ私自身なんだよ。そういう思いで断言しておきたい。

なぜなのか。そもそもが本庁の職員が汗かいて、アドバイザーじゃなくて、アドバイザー、例えばあなた方がアドバイスをもらって、入って行って、何とかするというのが本来の福祉という姿なんじゃないのかと私は思うわけだよ。

ここで論議されている問題というのは、申し訳ないけど、アドバイザーの方々からすれば、それこそ黒船来襲みたいな思いで入られたと思うよ。だって、今までやってきたお一人お一人の行動規範みたいなものが、ある意味でそうじゃないと否定されたら、日々のデイリーワークはどうしたらいいっていう戸惑いの中にいて、私は多分、この中には幾つか書いてあるけれども、また私も現場の職員の方と話をしたけど、本庁は何を言っているんだという声ばかりですよ。

あなた方がさ、ここで暖房の利いているこの中でもって我々が行動障害の方々をどうするかとか、ここでは言えるよ。だけれども、現場の中で毎日毎日デイリールーチンでもってやられている方々の思いからすれば、何としても喜んでもらおうと思ってやられた方々からすれば、何なんだよという怒りがこの中に全部私は出ているんだと思います。

今後、失礼ですが、もうこんな言い方、単刀直入に言わせていただきましょう。アドバイザーの方々とかこういう方々がもう対立関係になっちゃう。これどうするの。

◎障害サービス課長

委員の御指摘からすると、本当に周りの方からも、今回アドバイザーの方からも、もともとは県の本庁がしっかり指導すべきところできていなかったというのは言われています。そういった意味では、今我々もアドバイザーの指導を受けながら、支援、現場の改善というのに努めていかなければいけないと考えています。

◆鈴木ひでし委員

逆に、課長さん、現場に入るってさっきからいろいろお話ししているけれども、現場に入るといえるのはどういう意味で使っているの。だって、現場の方々はそのような障害をお持ちの方と日々対峙されていらっしゃるわけだよ。そこに本庁の方々がどうやって関わるのかというようなことを論議されたことあるの。

◎障害サービス課長

そういう意味ではそこまでの議論はできていないと思います。

◆鈴木ひでし委員

やはり課長、そこですよ。現場で、申し訳ないけれども、私も何年か前にお邪魔させていただいた、前の委員会でも私、お話しさせていただいたけれど、どれだけ大変な中やっていたらっしゃるのか。それはここで言うことは簡単ですよ。こうしろ、ああしろという。そのものがあなたの方分かっているのかというのが、この私は資料になって出てきたんだと私は思うんですよ。

だから、アドバイザーの方々と、もう一度真ん中に県の職員が汗かいて入っていただいて、職員の方と。そこどうするのかというようなことについて、きちんと決着をつけていただきたいということで、要望を一つしておきます。

二つ目、結局アドバイザーを配置した、これ以外に本庁として何をやってきたの、今まで。津久井やまゆり園が終わってさ、当事者目線だ、ああだこうだときれいごといっぱい出ているじゃん。何をやってきたの、今まで。

◎障害サービス課長

利用者の皆さんの生活が変わっているというのは事実だと思っています。ただ、じゃ、そこに我々がどこまで関与できたのか、何かアドバイザー入れる以外にできたのか、振り返ると、検証をしたりとか何か外の周りのものはつくっても、実態として我々が具体的にというものは、示せるものは、今ここで答弁できるものは正直ない。

◆鈴木ひでし委員

先ほども先行会派の方もおっしゃっていたけど、人ごとなんだよ、あんた方は。人ごとだから何回やったって変わらないんだよ、委員会の中の内容がさ。だって、これ終わって何が残るのよ。こういうことがありました。委員会開かれました。何か一步踏み出さなきゃいけないんだよ、本来この中でもって税金使って私たちも質問させていただいているんだったら。そういう緊迫感がないんだよ、あなた方に。だからこういう、失礼な言い方かもしれないけれど、こういうのをつくりました、アクションプランはどうです、もう何か上から何か眺めてものを出しているようなものにしか私は思えないから、腹が立ってしょうがないわけ。

行政にこう質問するわけでしょう。それで、私もこの中で、先ほどびっくりしちゃったのは、例えばアドバイザーの方々が、例えば生育歴をつくったらどうか、ひょっとしたらつくり方も分からないかもしれない、こういうような答弁を平気でしている状況というのは何なんだよと、あんたら。答弁するためにここにいるんだろうけど、私はこういう状況は断じて本当は廃していただきたいというふうに思うんですよ。

その上で、私何点かちょっとお願いがあります。お願いというか要望があります。

第1点は、このまま終わらせたくないの、一つは、もう時代はもう本当に働き方改革って物すごい勢いで変わっているわけですよ。俺、局長に聞きたいと思うんだけど、きっと何か固定化されたこの人事考査みたいな、何か4年に一遍はどこに行くみたいな、そんなこといつまでも介護現場と福祉現場でやっていいのか、これ。本来なら黒岩さんから来て答弁してもらいたいぐらいだ

けど。

こんな、だって常識で考えて、20代から30代前半の方は皆さんもうみんな共働きですよ。早く帰って育児もしなければならぬ。したらもっと違う対応の仕方だってあるだろう。真ん中の方はでき得れば一生懸命働いてもっとサラリーが欲しい。逆にまた、50代以降になってからは、子育てが大体終わった方はまた働き方も全部違う。人が集まらないんじゃないじゃなくて集めていないんだよ、あなた方が。そういう思考になれないんだよ。

これを局長、どうしたらいいかね。

◎福祉子どもみらい局長

今の委員からの御質問について、まさに働き方改革、現場では、我々よりももっとそういう現場の状況に合った働き方というのが考えられるかと思っております。

今の御指摘を踏まえて、現場はやはり24時間、利用者の生活の場ですから、利用者が一番最良の支援をしていく、安心して暮らせるような支援をする、そのためには職員の働き方というのも重要かと思っております。

そういう中で、今の固定観念だけでなく、新しい働き方というのは少し考えていく必要があるかと思っております。

◆鈴木ひでし委員

私も若いときには、通信社だったから24時間勤務だったんですよ。どれだけ体使っていらっしゃるのか、特に私はもう40代、50代の方は本当にしんどいと思うよ。そういう中でもう一度働き方改革というスタイルをしっかり持ち出す、そういうような形でひとつお願いしたいと思います。

二つ目、私は、ここで当事者目線とかよく言うじゃん。ところがよく考えてみたら、障害当事者の声は我々は聞いたことがないよね。みんな職員の声、アドバイザーさんの声、だけど当事者はどうなっているんだというこの視点をなぜ聞けないのか。

◎障害サービス課長

いまだに私の中にもやはり、例えば中井に入っている入所者の方に聞いても、そもそも理解していただけないんじゃないかという、もしかするとそういった考えがあるのかもしれない。

◆鈴木ひでし委員

私はそれこそ差別だと思うんだよ。私はじかに医者さんと話したわけじゃない、ちょっとある方からお話を聞いたのは、笑顔と対話ですとおっしゃっていた。対話の中にその人のいいものはいっぱいあるんですよ。だから鈴木さん、時間をかけてやらなければ駄目なんだよという言い方されたんです。

本当に私なんかもお会いして、瞬間にぱぱぱと健常者同士だったら終わっちゃうけれど、そういう一つ一つ、そういう私たちなんかも、もしよかったら本当にうちの常任の本当にメンバーが、私が言うことではないでしょうけれども、私

は本当に自らちよつと行って、じかにやはりお話をゆっくりさせていただきたいというような思いがあった。

そもそもは、当事者目線なんてあなた方がきれいごとを並べているのなら、どうするんだということを考えなさいよ。入所者の方々とそれこそ皆さん方と触れ合う機会とか、何がしたいのか、ひょっとしたらアドバイザーさんたちと職員の間で起こっているこのことを見たら、もっと仲よくしてよという一言、言うかもしれないよ。そういうようなものを私、二つ目はない。これ何か考えていただけませんか。

◎障害サービス課長

今回こういった委員会に当たっても、本当に当事者の声を聞いていないんじゃないかというのはアドバイザーの方からも指摘をされているところでございます。

そういった意味では、じゃ、具体的にどうやってやればいいのかというのは、今すぐ思いつかないんですけれども、しっかり聞けるような何かということをやはり、それこそアドバイザーの方にも相談しながら考えていきたいと思えます。

◆鈴木ひでし委員

私、最後をお願いしたかったのは、やはり人材の育成ビジョンとかというのは何にもないじゃないですか。アクションプランはあるよ。だけど、キャリアパスを積んでいく、そういう過程なんてない。

先ほど一番最初にこの提言の中で、局長からも、前向きにとおっしゃっていたけど、そうじゃない。やはり一つ一つ強度行動障害の方々の対応している方々が、こういうものは、要するにスキルを積んで、こういうようになっていくというようなビジョンというのを、人材ビジョンで人をつくってほしいんですよ。どうですかね。

◎福祉子どもみらい局長

今、県のまず職員、福祉職の人材についていうと、そういう人材育成指針、これは県の福祉職は総合福祉職ということで、児童相談所に行ったりケースワーカーやったり、それで施設にというようなところで、総合的な福祉職としての力。

ただ、やはり現場、施設での現場での支援という、基礎的なやはり利用者に対する愛情だとか共感力というところから、それぞれ専門力を高めていくというようなやはり段階があると思います。こういう人材育成が今までできていたかという、まだしっかりできていないというのは現実だと思います。

人材育成について何かそういう指針なりというのをつくっていくのは、というのは、独立行政法人化という中でも、福祉に科学的な目を入れて、またそういう新しい福祉を实践できる人材育成というところを大きな二つの柱に置いておりますので、人材育成という意味で、今の御提言の育成指針、ビジョン的なものというのは今後必要かと思っております。

◆鈴木ひでし委員

私最後に、お答えづらいかもしれないけれども、私こういうのを見ていて、やはり県会議員の今日の委員の先生方も、いろいろなやはり現場の声とかいろいろなやはり提言というのは、私すごく大事だと私は思ったんですよ。

局長に最後に、ちょっと私思ったのは、もう今後に向けて、一度第三者を入れた第三者機関に県議員も代表が入った形で、この福祉施設、特にまたこういう中井やまゆり園等々のこういう施設の、見ていく第三者機関というのをつくったらどうかと思いますけれど、どうですかね。突拍子で申し訳ないけどね。

◎福祉子どもみらい局長

現在、中井やまゆり園等、外部のアドバイザーも入っていただいたり、また外部の第三者に支援改善について御意見をいただいたりというところはやっておりますが、今御提案いただいた議員の皆さんに入っていただくとかそういうところにつきましても、今後関係者の意見を聞きながら検討していきたいと思います。

◆鈴木ひでし委員

ありがとうございました。ちょっとぜひとも見ていただいて、私、これだけやはり長い期間委員として出席してくださっている委員の方もいらっしゃるわけですから、そういう方たちのいろいろなやはり見識を入れた形で、県議会議員が入れるかどうかまだ分からないけれど、ぜひともそういう中で、より現場の声をしっかりとして入れていく第三者機関というのを、やはりもう議会と一体になってつくっていくのが本来の筋じゃないのかと私思ったので、提言をさせていただきました。

以上です。